

第3回鹿児島市地域力再生検討委員会 会議概要

日 時：平成19年11月28日（水）10：00～12：05

場 所：鹿児島市役所 東別館9階 特別中会議室

出席者：市民局長、市民部長、市民参画推進課長、地域振興係2人

鹿児島市地域力再生検討委員会委員13人（河原委員・柳委員欠席）

1 開 会

2 意見交換

「テーマ」

- ① 地域内の他団体や行政との連携・協働のあり方について（新規）
- ② 地域内の各種活動に住民の積極的な参加を促すための方策（新規）

3 その他

4 閉 会

会 長

- ・おはようございます。本日は河原委員と柳委員は、所用のため欠席である。先般、事務局から「資料1」、「資料2」、「資料3」並びに町内会実態調査等報告書（成果品）を送付したが、お持ちになられているか。

委 員

- ・はい。という声あり。

会 長

- ・資料1「町内会実態調査等クロス集計分析結果」は、第2回検討委員会で委員から詳細分析の要望があり、事務局で改めて集計分析を加えた資料である。発言の際の参考にお届けしたところである。
- ・資料2「第2回検討委員会会議概要」について、内容等に何か修正等ないか。

委 員

- ・はい。という声あり。

会 長

- ・修正等ないようなので、この内容でホームページに掲載させていただく。
- ・第2回検討委員会では、「町内会活動の現状と課題」「地域住民が期待する町内会活動とは」「地域力を再生するために、町内会が果たすべき役割とは」さらに、「町内会等の地域活動において望まれるリーダー像・リーダーの育成」というテーマで様々な意見等をいただいた。テーマごとに事務局で整理し、「資料3」としてお配りしている。
- ・第1回、第2回の検討委員会では、地域内の最も基礎的な、既存の住民自治組織である町内会活動を通じた地域力再生という観点から、活発に意見交換をしていただいた。本日は、今までの成果を踏まえ、これまでの町内会活動の課題等を認識した上で、地域内で活動する他の市民団体との関わり、行政との関わりも含むが、地域活動に関わりを持たない住民等に対する取り組みなど、地域全般にわたる活性化の観点から、テーマ①及びテーマ②という、新たなテーマ2件をお示ししたので、これまでの2回の会議を踏まえ、ご意見を賜りたい。
- ・それでは、テーマ①町内会と地域内の他団体や行政との連携・協働のあり方について、ご意見を賜りたい。

山下委員

- ・民生委員の立場で、いろんな行事の中で役員とか手伝いで参加しているが、町内会員は積極的に活動するけれども、それ以外の方はいろんな行事があっても知らないことが多いので、情報を積極的に流していくことが大事ではないか。町内会があること自体知らないという方も結構いる。
- ・一番問題になるのは弱者で、老人の方、障害者、生活保護の方など、町内会に入りたくても情報がなく、行政も積極的に情報も流さないと思う。行政では弱者や高齢の方、生活保護者は把握していると思うが、町内会は全然わからないのでどうしても孤立化していくのではないか。
- ・町内会に加入している6割は安心だが、それ以外の4割が行政からも町内会からも見捨てられていると感じるので、やはり行政と町内会も考えていかないといけない。

会 長

- ・はい、どうぞ。

茶園委員

- ・子どもが小さい、若い世帯は共働きが大変増えていて、共働きだと町内会活動に参加しにくい現実がある。だから、町内会でイベントをする時に、例えば、保育園、幼稚園などとタイアップすれば、共働き世帯も幼稚園、保育園企画のものだと割と参加しやすい

と思う。

- ・一人暮らしやお年寄り二人だけで生活している方も、自分達で町内会に参加するとなると体力的にも大変だが、例えば、デイホームなどと一緒に町内会が活動すると、デイホームのスタッフがいるので、老人の方も一年に一度か二度でも参加しやすくなるのではないかと。もちろん、そういうことに対しては行政のバックアップが大変必要だと思う。

会 長

- ・その他、どうぞ。

城本委員

- ・江戸時代など郷中教育の中で、行政とか関係なく町内会だけで活動していたと思う。それがなぜできなくなったかと言えば、どこにどんな人が、どれくらい住んでいるという情報がプライバシー保護とかで伝わらなくなったことによると思う。行政との連携も必要だが、行政がどこまで、誰が何人いるという情報を町内会に言えるのかという問題もある。行政の持っている情報を町内会にどこまで下ろし、その町内会の人たちがその人達にどこまで話しかけて行けるのかが一番重要な協議のところだと思う。

会 長

- ・その他、関連していかがか。田原委員。

田原委員

- ・町内会と地域内の他団体とは、連携すべきだと思う。お互い知らないだけで似たような事業をしていたり、募集をする時など町内会に応援や広報をしてもらったりということ、連携が深まれば深まるほどお互いにいいのだろうと思う。ただ、他の団体がどういう活動をしているのか、どういう人達がいるかわからないので、そういうきっかけづくりを行政が会合など、仕掛けをしてもらうのがいいと思う。
- ・地域内の他団体とあるが、例えば、永山さんがやっている団体で、応援をもらっているのはコアラでしたかね。地域内に限らず鹿児島市全域で活動しているような団体の情報ももらって連携を図ることも必要と思う。

会 長

- ・はい、西村委員。

西村委員

- ・あいご会活動で子ども達やいろんな団体と接する機会があるが、できるところに、でき

ることをお願いすることが一番手短な、どういう活動にしても活用しやすい考え方だと思う。

- ・ 私達のあいご会もコアラの方々に、ボランティア活動についていろんな活動の方法、会報の作り方、ゲームの仕方など、あいご会だけではできないので広域的な団体をお願いしている。
- ・ 暴力追放運動で私ども中央地区では、町内会長が先頭に立ち組織を作り上げた。中央町のビル自体が事務所になるとのことで、今回、加治屋町も中央町も動いた。その時の原動力である町内会組織はすごいと痛感した。
- ・ 事件に遭った会長は、町内会長という立場上、暴力追放運動の代表をするのは覚悟していたという話の中で、町内会と町内会長のあり方は、今回初めて命を張らないとできない仕事だと痛感した。今回の事件ほど校区の絆の強さを感じたことはなかった。町内会のあり方は、突き詰めれば突き詰めるほど考えが及ばないほど大事な組織だと思う。
- ・ 町内会は口で言うほど浅いものではなく、地域住民が100%町内会へ加入し地域のあり方を理解していけばこれ程すばらしいものはない。時代は変遷してきており、その時代にあった町内会のあり方や考え方も、多岐にわたるリーダーがいなければ、固守して小さな枠の中ばかりではいい会ができないと感じた。

会 長

- ・ はい、田上委員。

田上委員

- ・ 先日、大学とも連携している NPO かごしま生涯学習サポートセンター主催で、町内会及び校区公民館の代表者、行政代表として上之園課長、生涯学習課長が出席し4者でシンポジウムを開催した。その中で、他団体との連携は必要だが、どうしても行き違いがあり、うまくつながっていかない面があるという指摘が出た。
- ・ 一番大事なことは町内会の活動は具体的な活動であり、その町内会を大事にすることはいいことだという結論には達したが、行政だけが強くなってもいけないし、行政に甘えてもいけない。あるいは、教育委員会の類似公民館、条例公民館などの公民館的な活動を前面に出しても町内会がうまく流れていかない問題点や課題が出された。

岡本委員

- ・ 町内会と地域内の団体には何があるかということ、地域公民館は教育委員会の中で町内会と接点を持っている。それから校区公民館は校区ごと。それから校区社協、社会福祉協議会、防犯関係では交番や3署とのつながり、消防関係では防火協力会、消防団とのつながり、あいご会は町内会の一部ではあるが独立したところもあり、校区のあいご会と

してはつながりを持たないといけない。それから、地域によっては町内会連合会がある。それから高齢者の方々の連合会、女性の団体などたくさんあり、これらと町内会が連携を取るというのは当然のことで、うまくできていないところが無関心になる。

- ・これらの団体と全部付き合うと出方が多くなるという逆の問題も出てくる。これに全部出るのではなく、役割を変えて出ればいい。ただ自分の町内会に何が関わっているのかみんなが理解しないと、一部だけが知っているということでは困る。なぜその団体が必要なのかということ、町内会の中でみんなに説得してもらわないと、会費だけ払っているような団体だということでは困る。そういったことを思うと、町内会と他の団体というのは連携を取れば取るほど忙しいというのもあるし、あまりメリットのない団体には会費も払わないというところもある。
- ・前も言ったが、1年交替の町内会長にとっては、新たに他団体と付き合いをしていこうと積極的なことをされては、後の会長が迷惑だという現実を見ると、やはり、お互いが理解し合うには話し合いしかない。
- ・民生委員も当然町内会にいるが、個人情報保護もだが、町内会としては、この方がどういう人か、家族構成はこうだとかぐらいは、たとえ町内会に入っていないくても地域の人間として把握していかないと、行政が調査している要援護者の件にしても、町内会の人だけの問題じゃない。いろんな問題を一つ一つ見ると大事なことだと思う。

会 長

- ・はい、どうぞ。

永山委員

- ・町内会と他団体との連携ではいろんな関わりがあり、最終的にはその町内会の会長としてのリーダーシップと、いかに他の人達に仕事が振れるかなどの許容量や町内会に入っていない人も地縁の一人として認めていくという中での動きが他団体との連携というところにもつながっていくのではないかと思う。
- ・いつ何が起こるかかわからない今日、本当に地域コミュニティは防犯、防災だとよく言われる。そういう意味では、そこらの前提に立ったものの在り方というか、例えば、東谷山校区は災害に対する準備を整えた動きをしていて、そこら辺の意識を持った活動を前提にした町内会をもう一回学習をし直すというか、そこから始めると町内会としての意識のあり方が、他の団体との連携を高めていかなければならないというところに身をおけるのではないかと思う。
- ・町内会に格差があるのも現実で、非常にまとまっているところ、そうでないところあると思う。しかし、市民としては人の命とか、いろんな意味では同じレベルだと思うので、そこら辺の意識はみんな高めていこうということが大事だと思う。

- ・科学の発達によりコミュニティが非常に疎遠になり、また、行政サービスが行き過ぎて地域のコミュニティがなかなかとれないというのも現実で、行政もそこら辺をもう少し地域に下ろし、できる仕事は地域に任せるような、もう少しいろんなことでの行政との連携をやっていくといいと思う。

会 長

- ・はい、井前委員どうぞ。

井前委員

- ・地域内の他団体を書き出したらたくさんある。ただ、その情報をお互いに共有する機会がとれる場所が地域内にない。合併した 5 つの町では、地域まちづくり会議を年 4 回ほど開き、市に対する要望や地域における問題点等を話し合ってきたが、どう意見を吸い上げ会議の中で意見を出すか、あるいは、話し合ったことがどのような進行状態か住民に伝わりにくい。校区公民館はいろんな他団体の責任者が出会するので、情報交換しやすい場の一つではないかと思っている。こういうところを充実していくことが大事ではないか。

会 長

- ・一通り意見を伺ったが。中村委員。

中村委員

- ・私は校区公民館の委員でこちらの活動を中心にしているので、町内会があとになった感じに自分で思っているが、夏祭を除いた運動会、文化祭など行事のほとんどを校区公民館でやっており、町内会の区長にこちらから呼びかけ町内会と一緒に活動している。
- ・去年から校区の文化祭を皇徳寺小学校のバザーとタイアップしたことで、それまでは見る人が非常に少なく、一部の人達だけの活動になっていて、やめようという話もあったが、一緒にしたところ大変好評で、今年も展示品は各教室で、体育館の前半分で演技等を後方では食事の場所を設定し、先生達の出し物や地域の方のフラダンスや踊りなど盛り込んだところ、足を運んでくれる方が増えて大変感激した。運動会も一時は小学生もかなり減っていたけれども、子ども達の競技等を考慮したら、400 ずつ賞品も揃えたけれども、それだけの子ども達が集まってくれた。文化祭、運動会を中心につながりが深まってきていると、また、そういうことから地域力にも少しつながっていかないかなあとと思っている。

岡本委員

- ・町内会に集会場所があるところはうまくいく。ないところはどこで会合をするのかという時に、その町内会に関わる幼稚園やお寺、神社など活用しているところも結構ある。集会所を造るにも補助金制度があるが、現実的にはなかなかできないので、そういう町内会は大変だと思う。だから、地域との接点をそういったところは持っているが、集会所があるところはそこには世話にならんということ。
- ・校区公民館単位で物事をすれば、幼稚園でも学校でも全部一体となってやれるだろうが、一つの町内会が何か行事をしようとする時に、そこに幼稚園があるから、「来て下さい」と言っても大変だ。それと規模にもよる。だから、地域や団体とのつながりの中で、それぞれの地域に応じた対応をしていくべきで、それにはこういう方法があると示すことができればいいのかと思う。

会 長

- ・安藤委員いかがですか。

安藤委員

- ・町内会実態調査の 82 ページから要約が載っており、いろいろ言われたけれども、この中にもあるのがほとんどで、非常に参考になる。
- ・安心安全ということが言われており、町内会と他団体との連携ということに直結するものであり、これが一つの道具のような感じがする。だから一人ひとり感心を持ってほしいのだが。
- ・私達の校区では、回覧板は大体 5、15、25 日の 3 回に分けており、宣伝が足りないという意見もあったが、宣伝だらけで何に参加すればいいかと思う。だから個人個人から沸きだすものが与えられたらとか、吸収できたらいいと思う。

会 長

- ・はい、吉見委員。

吉見委員

- ・意見を聞いていると、このテーマに入りきっていない。解決策はもっと多面的に検討しないといけない。差別用語と受けとらないで欲しいが「群盲象をなでる」という言葉がある。全体はわからないという議論がこの町内会なる大きな象に当てはまる。時代は変わってきており、昔の町内会のイメージで議論しても入りきらない。しかも 6 割の加入では間違いなく長期低落する。なぜなら大都市ほど加入率は低いから。
- ・屋久島の私の農園を管理していた高齢の方が、土地を売り鹿児島島のマンションに住みた

いと言っている。要するに都市の利便性に勝てないということである。これから6割の加入率がどんどん下がってくると、行政として町内会を下請けに使わざるを得ない時代になってくる。行政だけですべてをやることができなくなると、町内会に期待するのは何か、町内会に何をまわしていくかということをもう一回明確に意志統一というか、役割を明確にしないと議論が収れんしないと思う。

- ・実態報告書では、年間会合に50回も出る方がいるそうで、一週間に一回出るようになる。かなりの部分が行政からの伝達事項だとすると、情報を市民に伝達するのにどうして町内会経由でないといけないのかとなる。今いろんな情報伝達ルート、ポスターや市の広報紙、新聞記事、広告、個人の関係ではファックス、電話、メール、携帯、携帯メールがある。町内会の掲示板もある。こんなに多様な伝達ルートがあるのに、それをすべて町内会に頼って伝達しないといけないということはある得ない。個々の家庭に伝える情報伝達の役割は町内会経由でなくていいということも考えないと、これからはやっていけなくなると思う。
- ・町内会に市が期待すること、やって欲しいことは、今後当然増える。ただし、それは町内会に任せたらいいのか、直接4割の家庭にアプローチした方がいいのか、そこら辺も含めて町内会に期待されること、町内会がなすべきこと、地域の保全のために会長が身の危険を感じてやるから、町内会は一つにまとまらないといけない時代になる。これは、ねばならない役割だと思う。
- ・以前提案した、柿とりや年寄りを山登りに連れて行くというインフォーマルな地域との関わりもこれから必要で、岡本委員が言われた拠点があるところは非常にいいということであれば、是非税金をそういう拠点づくりに投入してもらおうようなことを会議の総意として出すようなことをしたらいいと思う。
- ・町内会に期待される役割は何か、その役割のうち他で補完できる機能があるのではないかということも、事務局ご提示のテーマに限定されないで、もう1回議論しておかないとなかなか収まりがつかないのではないかと感じる。

会 長

- ・はい、田原委員。

田原委員

- ・町内会の加入率はこれから下がっていくだろうが、世の中の小さな行政という意味では大きな流れがあり、町内会に求められることはこれから大きくなる。そういう意味では町内会が活発に活動していかないといけないと思う。
- ・いろいろ活動して、もっと工夫すればやりやすくなることを行政が整理してくれればと思ったことがいくつかあるので提言するが、会合が多いのは確か集まっている人はだ

いたい一緒の人である。縦割り行政の弊害で、防犯や防災、衛生などそれぞれに年に 1 回、2 回開くと行く人は一緒だけど出方は多くなる。行政主体の会合はある程度集約して、行く人が一緒であれば主催者も集まってもらうなど工夫してもらうとかなり減るのではないかと実感した。

- ・コミュニティの核は小学校だと思っており、小学校で夜会合をしたら教室は開いてい、駐車場も、空き教室もあるから、会場場所のように1つは設えてもらい、「どうぞ使って」というようになればと思っている。そういうことを教育委員会の中で強く発言してもなかなか学校をオープンにしない。安全面などで私達が思うほど開いてくれない。民間の立場からは、物があり使われていない時間があるのであれば、そこを必要としている人に開放するだけでコストもかからないのにとと思うが、警備等にコストがかかるというようなことでオープンにしてくれないので、行政の中で話し合いをしてそういう場所を提供してくれると、かなり活動している人達は楽になると思う。

岡本委員

- ・学校開放と似たようなことが出てくるわけだが、校区公民館は夜間開放もするわけで問題ないが、「教室を会合等に使わせてくれ」と言うと学校側は「ちょっと」ということが現実にある。だから、「校区公民館を集会所がないところは大いに活用して」と呼びかけをしている。ただし、そこは距離が遠いとか、近いところは割と使うけれども、ちょっと2kmぐらい離れると、夜の会合にそこまではという話になる。
- ・さっきいった補助でもあれば、空き家でも借りられればという発想は必要なのかもしれない。町内会の拠点はまだそういう場所じゃないのかなあと思う。昔なら鎮守の森かお寺など、どこか寄り合いをするところがあった。校区公民館をそういったものの姿に行政は考えているわけで、そういった活用の方法なのかなと思う。

吉見委員

- ・田原委員の意見に大賛成だ。西伊敷小の4階の教室は全部空いている。子どもが少ないから、どこもそうだと思う。年寄り向けには4階は大変なので一階の教室を空けてもらい、机も会議室用になったら即ただで使える。体育館は卓球に使わせてくれるので、教室も同じ論法で使わせてもらったら、場所の問題も解決するのではないかな。

会 長

- ・はい、どうぞ。

田上委員

- ・今の進んだ意見に水をさすようだが、私もそういった仕事をずっとやってきたが、「こ

うという形で学校を開放して欲しい」「こんな風に学校を開放してくれればもっと学校にも協力できるのに」とか、実際はそういう意見が意外と少ない。そういう意見が出たら、空き教室は少子化の波にのりたくさん出てきているわけで、教育委員会とか当事者との協議で、運営と管理がうまくいきさえすれば開放できるというところに来ていると思う。

- ・民間活用と言うか、管理運営を民間に移譲するとか、会合の術をいろいろ考えさえすればできることではないか。

吉見委員

- ・田上委員、それは水ではなく大変なお湯だ。是非そういう方向で進めてもらえれば良いと思う。

永山委員

- ・今、コミュニティでプラットホームというか、ステーション的なものというのはかなり話題になっている。結局、各家庭が個室的になり、広間が無くたくさんの人が集うことができなくなった。日本の家庭の状況も、家や庭を開放して、「じゃあ、みんなで」ということが無くなった。
- ・人の集まる場所となると、やはり公的なものという感じになる。一つの活動をするのに、公的な場所が継続的に使えるのかというとなかなかそうではない部分もあるから、そういうところに行行政が支援をするのも一つだろうし、活動のスペースのないところは、率先的に空き家の活用法というものを進めていく。やはり人が集まるということは、その場所がないと出来ないという前提がある。
- ・吉野の高齢者福祉センターは65歳以上しか使えない。すばらしいプールがあるが、なぜ65歳以上しか使えないのか。例えば町内会のイベントでプールを使おうとするときに、65歳以上しか使えなければ、町内会は使えない。

委員

- ・空いている時もか。という声あり。

永山委員

- ・空いてる、空いてないに関わらず65歳以上しか使えない。そういう意味では、いろんなイベントが効果的に、公用的に使えたら、開放して欲しい。学校も一緒に、地域としてこういうので活用したいという意向があれば、ある程度、融通を利かせるというか、「こうこうだから、だめだ」ということではなくて、「この日はこうこうだから、使える場を提供する」という譲り合いが縦割りのなかで出来てくれば、もう少し、地域の中でもいろんな活用ができると思う。

- ・地域公民館も一緒に、町内会との連携は地域公民館とは割りと少ないと思うが、公民館を町内会が使いたいとか、例えば、地域公民館が町内会に入り込んでいくというシステムを作れば、生涯学習の場ではあるが、地域としての生涯学習の場として使われていくのではないかと。そこら辺の融通を緩和すれば、もっと町内会も幅が広がると思う。

西村委員

- ・学校開放という意味ではオープンでいいが、施設の利用となると別問題である。鹿児島市でも問題になっていることは、放課後児童の預かり方で、地域には児童クラブというのがある。教育委員会と子育て支援推進課とは、横のつながりはなく、教育委員会がだめと言ったら、子育て支援推進課は同じ敷地の中に児童クラブを造る。今後、学校の施設は重要になってくると思う。たくさん物を造ればいいというわけでもなく、財政難の中、新たに上物ばかり造り、児童クラブに入る子どもも今後どうなるかわからない状況で、学校を使う方法であれば市も負担が軽くなると思う。
- ・地域とコミュニティという意味では集会所が少ないから、校区の中心地に、どこの町でも日程を決め使えるような施設があれば、行政の方のサービスにもなるし、市民の方々も一つの町内会でそれぞれに集会所を持たなくても集会所ができるのではないかと。だから、町内会のあり方は今までと違うし、町内会を必要としない人達ももう半分もいるわけだから、半分の方々に目を向けるというのは絶対不可能だと思うが、不可能ではない方々も、楽しみにしている方々もいるわけで、そういう方々のためにどうしていくのかというのが、我々の町内会の役目だと思う。無理に向かせるというのではなく、今後は協働できる人達だけでやらなければならない時代に入っていくから、集会所もたくさん造るのではなく、その校区に一つあればいいのではないかと。

田上委員

- ・行政側の批判をするわけではないが、私も行政にいた経験があり、今の問題等は官庁の担当課の違いによってうまくまわらない。つまり規制緩和と言うけれども、規制緩和されない面が多々感じられた。
- ・例えば、児童クラブの場合でも厚生労働省と文部科学省の問題が大きくクローズアップされる。そういった問題を解決しない限り、管理運営が非常に難しくなるという現状がある。そこら辺りを行政の専門家の方々が十分検討されるだろうが、それを解決できれば学校の開放は波に乗っていくのではないかと。

岡本委員

- ・学校開放を一方では言いながら、安心安全の面から犯罪が起きないようにガードしなければならぬ。そうすると管理する側は貸したくないわけで、物が壊れても大変だから、

そういう現実を見ると所管というのはある訳で、認めざるを得ない。

- ・空き教室の話があったが、私の校区では千人もの児童がおり、もっと増える可能性があり教室を増築しないといけないということもある。今空き教室をどうするのか、そのままにしておくのか、開放するにしろ何にしろ、整理していくのか、無駄なものをずっとおいておくのかと言うのが一方ではあると思う。
- ・校区公民館を行政が造ってくれていることはありがたい。私は紫原で、「紫原には3万人もの住民がいるが、なぜコミュニティセンターがないのか」と運動をしたが、市有地がないということで、一発で終わった。
- ・地域コミュニティセンターに替わるものは中学校単位にある地域福祉館だと言われるが、そこも、夜は習い事が多く、町内会がここで会合したいと言ってもそれが入っていると福祉館の活用は無理である。一方では福祉を目的に貸しているという建前がありなかなか難しい。
- ・集会所を持っている町内会が開放してくれればいいが、実質その経費は町内会が持つわけだから使用料を払えば使えるようになってきていると思うが、なかなかよそに貸すために造ったものではないとか、商工会が金を出しているからとか、自分の町内会の中でも縄張りをしているところなどいろいろある。

田原委員

- ・私は、介護している妻と小学校の校庭を歩きたいと思い、息子の通う小学校まで行ったが、一周回ってもどっからも入れなかった。安全面で隔離しているようで、本当に悪い人がいたら、乗り越えてでも入って何か悪いことをすると思う。一方では、子ども達が遊んでいる公園などはオープンで、そこで何か起きる可能性もある。そういった意味では、隔離して安全を保つより、オープンにして小学校の校庭が公園になるようなイメージで、みんなが加わり、みんなの視線がいつもあるような感じにしたほうがよっぽどありがたい。
- ・高齢者と文化祭の話があったが、特区構想とかで、今までの規制とかをとっばらい、教室の用途変更してくれればすごく助かるわけで、まず、実験的にやる方法もあるわけだから、そういうのも含め弊害があるのは知恵を出して乗り越えていければいいと思う。
- ・特に小学校は、コミュニティの核になると言ったが、昔の小学校の運動会などは地域のお祭りのなところがあり、小学生以外の人たちの集まり方も多かったが、今はどちらかという陸上記録会みたいな運動会になって、学校側も地域との連携を薄めているのではないか。やはり、その辺は見直して、町内会とか、地域で子ども達を育てるんだと、その核が小、中学校であり、そこには地域のいろんな方々がボランティアで集まる場所でもあるんだと、そういう形になればいいのではないかと思う。

中村委員

- ・私達の子どもが小学校の時までは小学校も開放され、池田小事件が起こるまでは、「どうぞ、お入りください」ということだったが、開放することで勝手にプールに入り、洋服のままで泳いでいる子ども達がいったり、朝にはビールの空き缶などが散らかっていたりとか、色々な問題がその時にも起こっていた。
- ・空き教室の開放とか、小学校がメインになりというのは本当に賛成だが、ガードの問題で、実際、自分の子ども達が小学校にいた時に、あの事件が起きて、「何とかしなければ」というのが親にはあり、扉や門を閉めても入るときには入るが、どうしても閉ざしてしまう方向になるというのを感じた。だから、子を持つ親も、学校側も、学校で何かあったらいけないということで、過敏かもしれないが、ガードを固くしたと思う。学校に入るのもややこしくなったと思っているが、それぐらいしなければいけない時代になってきており、学校開放の問題とガードの問題は本当に難しいと思う。
- ・学校の運動会について反論するが、学校の運動会は教育の一環であって、学校の勉強である。そういう体育の授業の発表の場が運動会だと思う。私は、幼稚園で幼児教育をしてもそういうのがあったので、さっき校区公民館のことを言ったが、そういう形でやっていかなければ、学校のなかに全部入り込むというのは難しいと私は思う。

会 長

- ・はい。じゃあ。

安藤委員

- ・運動会を校区単位とするなら、幼稚園生から70、80歳まで誰でも参加でき、楽しみ、コミュニケーションをとって帰れるような内容でないといけないわけで、今までは、社会体育大会と名前をつけていたけれども、社会体育大会に出るような人は、市の大会に出ればという発想で、大運動会という名前に変えて3年ほどしている。

会 長

- ・じゃあ、時間が、次のテーマもあるので。

城本委員

- ・僕から言わせてもらえれば、運動会とか必要ない。走って、親に発表の場を見せるというのはわかるが、何かに競争する気持ちを持つのは確かに大切かもしれないけれども、そこで町内会の人たちと何か催しが出来れば、子ども達を見せることで、こういう子ども達がここには住んでいて、こういう人たちがいるというのがわかると思う。ただ、それを発表の場だけにしてしまうと、町内会とか、おじいちゃんおばあちゃんとかは見に

行きたいと思ったら行けるが、まあいいかと思う人は行かないと思う。

- ・会合の時、「大人だけの会合をするから貸してくれ」だと小学校とか教育委員会とかも簡単には認めないと思う。今、安全な遊び場も全然無い状態で、公園に行っても安全ではなく、自分の家の周りや家の中が1番安全というのがあるから、周りとの繋がりも薄くなる。危険だから子ども達を出したくないのもわかるが、そうであれば町内会で子ども達を預かれないかということは全然ないのかと思う。町内会の人たちに預けて怪我をさせれば町内会が大変だが、その人たちに遊んでもらった子ども達は町内会のこともわかると思う。
- ・今、青年団体という26歳から40歳の年齢層の人たちが動いていないというのがある。僕が小学生の頃には、町内会として子ども達と触れ合えるのは運動会と文化祭とか、そういうちょっとしたところでしかなかったので、そういうので活動が希薄になっていくのではないかと思う。

中村委員

- ・私が「学校の教育の中に入り込まなくても」と言ったのは、別の方向から攻めていくという、町内会単位や校区公民館単位で運動会などを開いて、その中に子ども達を取り込むということでもコミュニケーションはとれるのではないかと。だから、教育で走らせると言われるが、順番をあまり決めないところも多い。順番を決める、競わせるのが目的ではないということになっている。

委員

- ・そういうのはないのか。という声あり。

中村委員

- ・時により、順位を決めないというふうになっていて、競争だけをさせるのではない。ただ、運動会というのは授業の流れだと私は思うので、その中にまで競技を取り入れる必要はなく、そうであれば目的は違うところでもってこないといけないから、学校開放とは別な話だと思ったので、反対と申し上げた。

岡本委員

- ・今、学校の合唱部や吹奏楽の音がうるさいと苦情を言われる時代で、自分勝手といえば、自分勝手である。ただそれが、例えば、運動会だと許される範囲内だろうけど。やっぱりそういう時代だ。
- ・夜間開放にしても校庭を開けておけば、暴走族が使ったり、ガラスを割ったり、いたずらをされるというのがある。今、学校に行くと、「すまた」が、あちこち見られる。い

やな世の中だと。みんな犯罪者に見えているのではないかというぐらい。我々は、解放して一体となれるようなものをして欲しいが、世の中がそういうことで思うようにいかない。

- ・町内会と他の団体というのが今日のテーマで、関わるところがしっかりしていれば、なんらかの方法があるのではないか。域福祉館とか、校区公民館とかを話し合いの場として使いながら、そういう地域とのつながりを、だいたい町内会とさっき言った団体とはほとんどつながりをもっている。問題は、町内会に入らないということである。

西村委員

- ・町内会は楽しみ方、視点の向け方だと思う。町内会は、こと難しく、役所の下働きだという考えの方もいるが、私はそうは思わない。自分達の住んでいるところがそういう風に活動できることを喜ばしく思わないことには、前に進まない。
- ・我々は町の運動会を40年近くやっている。これは学校で出来ない遊びを含んだ運動会である。学校は学校で教育の一環で運動会をやる。だから、楽しみ方、やり方であり、そう考えていけばたくさんある。ひとつひとつ考えて行事を進めていけば、一年があっという間に過ぎていく感じである。

会 長

- ・時間がずいぶん。テーマがもう一つあるので手短に。

田上委員

- ・行政からの仕事が町内会に流れてくるという話が出ているが、私の町内会の会長が市議会を傍聴した時、ある市議が「町内会に行政からの仕事を押し付けるな」と質問をしたところ、総務課長か、総務部長が「そういうのは直接やっていない」という回答であった。直接やっているはずはないと思うが、総務課であったら、例えば、社会福祉協議会とか、何々協議会というようなところから、町内会に回覧が回ってきたり、調査物が回ってきたりするわけだから、行政としては、「町内会へはやっていない」という回答が正当だと思う。しかし、各種団体からくる仕事は、かなりあるように感じる。そういうことを考えると、各種団体との連携も町内会はうまくやらないとうまく進まないのではないかと感じる。

会 長

- ・町内会と地域内の他の団体、それから行政との連携、協働のあり方について、お互いがやれることと、やれないことは何か。町内会が万能のような捉え方をしていたり、行政が何か全てのことに関わりを持つということが出来なくなっていて、お互いができ

るかたちを模索しているということなど、今の意見を集約すると幾つかある。

- ・一つは、第一のテーマでは、活動の母体をもう一回見直すことが大事ということが意見に集約されていたと思う。社会環境、経済環境が変わっていく中で従来のやり方でいいのか、発想や活動の内容が全く同じところに懐疑性があるのではないか。
- ・二つ目は、活動拠点、これは自己の拠点だけでなく、やり方によっては広域的な捉え方で会議の開き方ができるのではないかと感じる。住んでいるのは自分の地区だけれども、連携のあり方というのは会議の開き方、共通するような会議の持ち方もできるのではないか。そういうのも今から考えていかないといけない。そうすることで隣接する地域と地区とのコラボレーションができるという発想もある。自分達のことを自分達だけではなくて、共通している、例えば、ごみの問題でも、集会のいろんな捉え方でも、そういう発想も大事ではないか。
- ・三つ目は、活動のネットワークも非常に大事で、小学校だとか、校区公民館とか、特に小学校の中に校区公民館があるのは鹿児島市だけで、今度、合併したところは今後のテーマで、町内会の在り方として新鹿児島市に加わった旧町との流れをどうするのかということ。
- ・四つ目は、やってきた活動の効果測定をどうするのか。つまり、中間で今までやってきた成果をメリット、デメリットで捉えていかないといけない。これからの活動を垂れ流し的にして、新しいものをどんどん取り入れるのはなかなか難しい。やはり一回、精査してみることはとても大事で、外部から新しい人の意見を聞いてみる。つまり、町内会が町内会だけで語られ、馴れ合いになっていて、あまり自己評価、自己批判をしない。だから、ネットワークの知識人が集まっている、知恵が集まっている人達が、他の市町村のことも視察するようなことも非常に大事な気がする。自己満足で終わってしまうという感じがしないでもない。
- ・五つ目は、4割とか6割とかこだわらずに、そこに住んでいれば必ず地域の問題があり、どう私達の生活をよりよく改善していくかという、まさに今までやってきた町内会の活動をどう持続するかというのが町内会の生命線だと思う。そこをおさえないと、母体がぐらぐらしては、新規事業は当然出来ないし、継続事業が非常に多い中で、みんな一緒にするから無理がくるわけで、その中でも重要度がある活動メニューが何なのかというのをもう一回見直してみることが大事ではないか。
- ・施設利用のあり方では、個人だと貸し出さないとと思うが、こういう協議会、例えば学校施設の利用促進協議会とか、法的な受け皿を作って交渉することで何か対応策ができるのではないか。いくら学校や校区に対応していても、教育委員会としては個々のケースとしてしか扱わないから、ルールづくりが出来ない。そういう意味では、全体でこういう問題を話し合う機関ができることが大事であり、そこと教育委員会若しくは行政あるいは地域との連携することが、地域のコミュニティづくりのあり方を勉強することにな

るのではないか。

- ・地域内の団体、行政と連携、協働のあり方ということで、行政も積極的に情報をとっているとしますので、次の②で今後の地域内の活動、各種活動に住民の積極的な参加を促すための方策に移りたい。よろしいか。

委員

- ・はい。と言う声あり。

会長

- ・第一回の資料の中でも、市でも町内会活動の促進に対する取組みを実施されているということであったが、他に、今年度、新たな取組みを実施している施策等があればお示しいただきたい。
- ・第2点は、一般的に町内会の親睦交流活動が町内会のイメージとしてあるが、例えば、運動会や敬老会、十五夜祭など、地域によっては非常にユニークな活動を展開しているところもあると聞いている。事務局でそういう事例、あるいは住民行事への参加を促すうまいやり方とか、知恵をだしているとか、私はいつも「知識のあるところに人は集まるが、集まるだけで、知恵が無いと人は動かない」と言っているが、非常に大事なところだと思っており、その辺も紹介してもらいたい。

事務局

- ・1点目の本年度からの新たな町内会加入促進に係る取組みだが、一つは、9月から本市の公用車382台の車体に、「みんなで参加 みんなの町内会」というボディパネルを掲出し、併せて「安全パトロール実施中」ということにも配慮している。また、市民のひろば9月号に特集号的なものを組んだところである。また、本庁舎及び9支所に懸垂幕を新たに掲げるようにしたところであり、その他にもこれまでどおりポスターやチラシを作ったりという施策は続けている。
- ・2点目の町内会のユニークな活動では、清水校区の池之上町内会がクリスマスバザールを、花野校区の千年一丁目・花野光ヶ丘町内会では花野フェスタということで、伝統芸能とか小中学校の吹奏楽、フリーマーケットなども併せたフェスティバル的なものを開催している。同じく花野校区の花野町内会では、花ロード造りということで、休耕田を利用して菜の花やひまわりを栽植して、景観形成をしているというような取組みがある。
- ・参加呼びかけでは、一般的に町内会の掲示板やスピーカーをつけた広報車、回覧板や町内会だより等でしているようだが、あまりユニークな取組みとは言えないようである。その他に、町内会の活動で集まる町内の一斉清掃や地域住民が他の団体の行事等で集ま

る場所でチラシを配布するなど苦勞をされているようである。

会 長

- ・加入促進を図るという取り組みで、382台の公用車にステッカーを貼っていると言うことだが、どこに貼っているのか。

事務局

- ・車の両サイドです。

会 長

- ・後ろはないのか。382台の公用車に「みんなで参加 みんなの町内会」ステッカーを貼ることで、意識を啓発するという意味ではこういう取り組みを周知徹底していくことは非常に大事だと思っている。そういう姿勢が表に出て行くことが非常に大事だと思う。いやがおうでも町内会ということに意識を向けるということ。それから、懸垂幕は。

事務局

- ・本庁舎では名山小学校側に、それから各支所にも懸垂幕を掲げる所があり、全部一緒に同じ「みんなで参加 みんなの町内会」という懸垂幕をさげている。

会 長

- ・フェスタとかバザールとか、最近はよく景観形成というか、アメニティという、自分達の住んでいる地域の快適性の中に景観という要素が入ってくることは非常に大事だ。町並みの雰囲気や地区の顔として表していくこと。人間は人相と言うが、そういうように町のアイデンティティを示す個性とか、独自性を示すというのがでてくるが、そこに住んでいる人達の意識以上にその町はよくなる言われるから、そこに住んでいる住民が自分達のまちの格を決定づける、最近、風格をおとしたまちづくりというのがよく言われるが、格のあるまちづくりというのは非常に大事だ。住んでいる人が住んでいる地区に誇りを持つという、規模が多きいとか、歴史があるとか、古いとかではなくて、住んでいることを誇りに思うという視点はユニークな取組みのなかに大事な視点だ。
- ・人が集まるところにチラシを配ることはいい。ある町では、人の集まらないところに特産品を持ち込んで売ろうとしたが、人は来ない。人が集まるでは売れる。そういう発想力や演出力、企画力が全くセットになっておらずバラバラだからうまくいかない。人が集まるところに行き情報を提供することは、非常に効率的、効果的で理に適っている。そういうことを含めて、ご意見をいただきたい。城本委員。

城本委員

- ・積極的な参加を促すという方策で、しっかり告知するというのはいい案だ。9月の検討委員会が終わった後、うちの町内会はお月見会と防犯訓練をしたようで、家に帰ったら花火の音がしたり、また、土日に家で寝ていたら救急車や消防車のサイレンが鳴って、どこが火事なのかと思ったら、防災訓練だと言われた。町内会に入っていないから回覧板も来ないというのもあるが、そういう告知が回ってくればというのがあった。市民のひろばでもいいから挟んでもらえればと思う。

会 長

- ・その他、いかがか。

茶園委員

- ・町内会に入っていない人、町内会があることを知らず入っていない人もいたりするが、そういう方のためには経費がかかるけれども、印刷物をその方々のポストに入れておくなど繰り返すことで、「今度はあそこで何かある」と知ることもでき、印刷物に「町内会費を払っておられないが、どなたでもお気軽にお越しください」的なフレーズも入れて欲しい。
- ・今、インターネットの世界ではユビキタスといって、「いつでも、どこでも、誰でも」という感じになってきている。一人暮らしや独身者、子供のいない方、お年寄りなど町内会に入っていない人が多いと思うが、町内会の活動もそういう人でも参加できるものも多少増やしてもらい、町内会に入っていない、会費を納めていない人でも何回かは参加できるようなものを盛り込んでもらえると、参加したり目にするすることで、地域に親しみを持つと思う。親しみを持つと、「今度は企画に関わりたい。もっと仲良くして参加してみたい」となり、そういう折に「町内会にどうぞお入りください」というパンフレットを置いて、自然と勧誘するようなやわらかいやり方の方が、都会から転入して来た方にも受け入れやすいのではないかと。

会 長

- ・はい、どうぞ。

田上委員

- ・町内会の四役会で、住民から「町内会の広報紙は2カ月に1回ぐらいでいい」という声があり一時間半激論をした。広報は、声で情報を提供する場合と活字で提供する場合とあるが、声の場合は、時期や時間の問題が非常に難しい。何故、2ヶ月に1回なのだろうと。自分達の町内会の広報を読んで欲しいが、読んでもらえない悩みがある。やはり

構成力、情報紙のデザインの問題とかあるが、非常にマンネリ化した問題が多々あるというのが一つの要因であったので、4, 5人のプロジェクトチームでもう一回練り直そうという結論に達した。

- ・情報は提供しなければ必ず苦情がくるし、やりすぎても苦情がくる。程度の問題で難しい問題があるという結論であった。

会長

- ・インフォメーションのやり方はとても大事で、今、音声とか活字とかいろんなメディアを使う。大学などでも携帯電話とキャンパス結んで、情報やレポートをやりとりする。
- ・活字による情報誌はとても大事で、読みたいと思うような情報誌というか、情報は同じでも出し方の内容をもっと勉強する必要がある。例えば、誌面を作る新聞社や雑誌社のプロの人達を一回研修会に呼んでみることも大事な町内会の研修ではないか。割り振りや見出しについてヒントをもらうことで、自分がセミプロになったような感じで、取り組んでいける。
- ・若い世代の大学生が活動には実態として参加していなくても、彼らの斬新な発想やアイデアとかをパソコンを使って誌面作りに参加させることも、町内会ではこんなことをしているんだと内容を見るので、参加する意欲につながっていくと考える。そこで、永山委員もタウン誌を作っていたので、その辺のご意見を。

永山委員

- ・確かに、情報は画面でたくさん流れても瞬時で、記憶に残らない、書留められないというのがあるが、活字で流すことはとても大切だと思う。そういう意味では、毎月きちっと提供しているのはすごい。
- ・魅力的な誌面の作り方では、自分達だけの情報だけでなく、外部情報を入れることも大切で、他の活動団体のことを流すと色々な知識が広がるから、その誌面を見ることで自分が今すぐ得たい情報がそこにあるということがとても大切ではないか。
- ・他団体と言ったが、生活に触れた、大根がどのくらいだとか、身近な情報を一面の一角で流すと、誌面が光っていく。ミニコミ誌は生活に触れたもので、女性の視点というのもとても大切で、男性だけではなく女性の方も入れて作ると思う。

田上委員

- ・その苦情は女性からである。

岡本委員

- ・関心がある人は必要な情報だけでいいとか言って熱心に見るわけで、全然見ない人は、

「余計なことをして、ごみが溜まってしょうがない」と言う。忙しい人は「7時には出ないといけない」とか、大掃除にも出られない人もいるわけで、そういったことを地域の中でお互いが認識すれば、それでいい。

- ・私のところは毎月会合があり、情報を提供するの、土曜日のあくる朝の大掃除の前に伝達しているから、そういうのにあまり関心がなく、見ない人は見ないわけで、見ない人に来いとは言えない。やはり、主体は町内会だから、そういったことを積み重ねていかないと、「何でそれをしなければいけないのか」と言われると、何をしてもだめだ。そうではなく、お互いがすがすがしい気持ちになろうという話をするわけだが、理解を求めるにはコミュニケーションがとれていないとできない。
- ・最近公民館だよりも来るが、必要ないのではないか。学校だよりも各教室の活動も学校からくるが、こういう小さな字は、年寄りは見ないと思う。伝えたい側はいっぱい詰め込み、色もきれいにするが、これを回覧した時に果たして見るだろうかといつも思う。それをひっくるめて行事とかの活動時に呼びかける工夫をすればいいのではないか。
- ・コミュニケーションのとり方で一番てっとり早いのは飲み方だと言っているが、学校では「おやじの会」とかあり、最近よく活動しているとニュースででているが、あれも懇親会を持つからうまくいくわけで、「行事だけ出て来い」といっても来ない。そういった現実を見ながらやらないと、理想論は非常に簡単だが、自分の地域はどういう状況なのかというのは、やはりリーダーがそこら辺りをお互いが認識して進めないとうまくいかないのではないか。

会 長

- ・はい、どうぞ。

西村委員

- ・市の校区公民館主体で体育大会や文化祭、子ども会大会などあるが、山下校区には子ども会はなく、青少年育成大会もなかった。他の校区では20回、28回とかしており、何か打ち立てないとの思いで、文化祭を3年前に立ち上げたが、7割方は反対というより、最初の言葉は「何になるの」と言われた。「何にもならない」という訳にはいかず「必要な人は来る。地域に埋もれたものがいっぱいある」「歌を歌いたい方、ピアノを演奏したい方いっぱいいる」と言った。第1回目は、最初から多くのものを望んでもしょうがないので、出し物は5つぐらいにして、ピアノ発表とか小学校の子ども歌とか、小学校の書道を並べて、地域からの品物はほとんどこなかった。いすも300も並べたが来たのは70、80人であった。
- ・第2回目は、各町内会に回覧板を回し、学校からも子ども便で広報したら、また少しずつ増え、子ども達の参加も20人いたかなという感じであった。それでも学校長、教頭

が一生懸命取り組んでくれたおかげで、今年で第4回目だが、みなさんがすれば、気がついた人はやっぱり来てくれる。参加させてくれと。そういう風に何かしていかないと、地域の活性は無い。何もしない方が楽だが、楽という前に地域が本当になんのためにあるのか、校区には何があるのかと考えさせること、地域に住んでいる人たちにも促すことが必要だ。

- ・加治屋町では西郷さんの偉人祭を、私達が小さい時は9月23日にしていたが、学校が休めないということで、夏休みにするようになった。その偉人祭の時、子ども達に作文を書かすが、「住んでいていい」「私達も西郷さん、大久保さんぐらいにはなれないかもしれないが、そういう方々の勉強をしていきたい」「そういう地域にいるおかげで、歴史を学ぶこともできた」ということで、そういうことから継続していてよかったと思う。
- ・地域の方々もだが他のの方々も呼ばなければということで、平成3年から維新ふるさと祭りを始めた。その後、維新ふるさと館ができたおかげで、維新ふるさと祭りとして銘打って第15回を迎えたが、町内会に予算が無いので6町の企業を回って一口最低5千円の寄付をいただき、これまで続けている。いつまで続くかわからないが、加治屋町の防犯防火部の青年から年老いたの方々など20人ぐらいを中心に、住民一体となりやっている。

会 長

- ・はい、井前委員。

井前委員

- ・②のテーマと関係ないかもしれないが、住宅用火災警報機の設置義務化が新築について昨年6月から、既存住宅は平成23年6月までということで、ある町内会長が「1年交替で何もしないでやめるのではなく、何かしてみたい」ということで町内会の全世帯に呼びかけ設置しようとしたところ、価格や機種の種類などで一歩進まない折、消防分遣隊から校区公民館で音頭をとって欲しいという話があった。取扱店に聞いたところ、数がまとまれば非常に安価だということで、500ぐらいで定価の53%ぐらいにできるということであった。取り扱いの際、町内会に入っていない世帯にも、この際、何かのコミュニケーションの接点になるかもということで町内会の判断に任せたら、16町内会のうち注文があったのは2町内会だけだったが、高齢者が多い地域で取り付けまで世話したところ、全世帯の4割近い申込みがあった。一番良かったのは、未加入世帯との接点が出来たことと、安心安全のまちづくりにつながっていくのではないかと。

会 長

- はい、田原委員

田原委員

- ・地域内の各種活動に住民の積極的な参加を促すためには、情報に接していない方、いわゆる町内会に入っていない方をいろんな媒体や町内会に住んでいる方の声掛けも含めて伝えていかないといけない。
- ・積極的な参加となると、活動や事業自体がおもしろく充実してないとつながらない。そのためには、主催者側、事業に参画する方の意識も高めないといけないし、ある程度ノウハウや知識、知恵のある方が関わらないといけないのではないか。そのキーマンになるのは仕事をリタイアされた元気な高齢者の方だ。
- ・自分を振り返ると、子育て世代で仕事もしないといけない中、なかなか社会に関わるのを制約される。そういう意味では、仕事とは違う社会に関わるきっかけになる仕掛けを行政にやってもらいたい。具体的には、例えば、鹿児島検定なんかを取られた方とか、教育に携わった方がボランティアで、空き教室で学力が低下してきた子ども達を見るといような、いろんな仕掛けをつくってほしいと思う。
- ・実際、自分が要介護者を抱えている立場で、例えば、元気な老人でなかったり、要介護者になったら、仮に、認知症で要介護度3とかなると、年間の予算が一人につき300万円ぐらいかかり社会に対するコスト増になる。社会としては、元気な老人でいて欲しいので福祉の方のサポートをする仕事の間を作ってもらいたい。認知症は、遺伝的な要素と社会的な要因があり、社会的な要因にはだいたい4つぐらい原因があると言われていたが、原因がわかっているので、それこそ知恵やノウハウを持った方々に活躍できる場所をたくさん作り、地域力再生の担い手になってもらえればと思う。
- ・地域力再生の予算だけではなく、福祉の介護を抑制する、若しくはコストがかからないようにするのであれば、そこから予算をもってきてでも手当てすることが求められている時代ではないか。だから、少なくともリタイアした方々に社会に関わってもらえるような仕掛けや研修などしてもらえればと思う。

会長

- ・はい、ありがとうございました。

永山委員

- ・②のところで、主催者側、事を行う側がマンネリ化するのは、昨年どおりにするからマンネリ化になる。昨年の通りに同じ人たちがすると、緻密にいろんな計画を立てて広報をすることも、いろんなことが抜けていく。要するに、同じことをするにしても、新しいことを加えるようなやり方がとっても大切ということと、主催者側がまず楽しんでやるということが大切だと思う。

会 長

- ・ 田上委員。

田上委員

- ・ 校区の文化祭で、昨年から「町内会に埋もれているすばらしい人がいるはずだ」という発想から、自慢コーナーを作り、全国表彰や日展で特選をもらうなどユニークな人たちの掘り起こしをして、賞を展示している。大変、人気があり、今年はかなり全体の文化祭の人数も増えた。

会 長

- ・ 予定の時間がきたが、大変貴重な積極的な意見を出してもらった。町内会の一番の基本は、その地域で生きていく、その地域に生きていくことで、認められているということが非常に大事だと思う。生きていくということ、認められているということ、認め合うこと、双方向が原点じゃないかと思う。住んでいることをお互いに認め合うこと、その関わり合いの長さや、期間、その深さとかとても大事ではないかと思い聞いた。
- ・ そこに住んでいる人たちの宝探し、自慢探し、これは本当に地域に一番元気が出る。今、町内会が云々と言われるのは、元気が出ることをやらないからであり、「できることを、できるときに」という西村委員が言ったことはとても大事なことだ。
- ・ その他に関わるが、先般、町内会におけるその転入、転出者の情報という記事が南日本新聞に出たが、喜入の市長とふれあいトークでの記事だと思うが、事務局から紹介していただきたい。

事務局

- ・ 時間をおして議論いただく時間はないが、10月9日の喜入校区での市長とふれあいトークにおいて、参加者から「町内会の加入率向上のために、転出転入の情報を本人の同意を確認の上町内会に提供できないか」という意見があり、南日本新聞に掲載されたところである。このことに関しては、個人情報保護法成立の流れや住民基本台帳法の一部改正等の問題等を考えると、この転入転出情報を町内会に提供することは難しいと考えている。市長からも地域力再生検討委員会の皆さんにこういったことを示し、これまでの活動の中で、どのような転入転出の状況の把握の仕方をしているのか、そういうヒントや事例等があれば、意見をいただきたいと考えていたが、時間をおしてしまったので次回でも、個別に教えていただきたい。

会 長

- ・ 南日本新聞の10月11日付の記事の中で、地域力再生検討委員会という名前が出て大

変責任もあるが、これは次回、時間を少しいただき、個人情報の問題は、今非常に関心も高く、また効果をどう出すかということにつながっていくので、次回の会議でお諮りしたい。よろしいか。

委員

- ・はい。という声あり。

会長

- ・そのようにさせていただきたい。それでは予定の時間をおしたが、本日の意見交換の第1、第2のテーマについて貴重な意見をたくさんいただいた。意見を事務局で精査し次回に役立てていきたいと思う。次のスケジュールを事務局からお知らせ願いたい。

事務局

- ・次回は2月上旬を予定している。皆様の都合等も勘案しながら、できるだけ早い時期にお知らせしたい。また、これまで同様の資料の提供、会議概要についても同様の取り扱いとさせていただきたい。

会長

- ・次回、皆さんのお手元に、本日の会議概要が事前に配布されると思うので、お目通しいただき第4回目の会議で少し方向性を絞り込み展開していただきたい。それでは、時間も経過したが、貴重な意見をいただいた。以上をもって、第3回目の地域力再生検討委員会を終了させていただく。長時間ありがとうございました。